

会議録（要旨）

会議の名称	令和元年度第2回浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
開催日時	令和2年2月14日（金）午前10時～正午
開催場所	浅口市役所 消防機庫2階会議室
出席者氏名（敬称略）	中村 良平、井上 邦男、中務 美保子、原田 一成、渡部 育生、 小野 隆久、山下 隆志、山田 直子、吉岡 貴美、守屋 靖、谷本 勉、 鈴木 義治
欠席者氏名（敬称略）	松本 めぐみ、三宅 秀次郎、福嶋 啓祐、石井 修平、瀬良 憲昭、柏原 淳
会議次第	1 開会 2 議事 （1）浅口市人口ビジョン（改訂版）及び第2期「浅口市まち・ひと・しごと 創生総合戦略」策定にあたって （2）その他 3 閉会
配付資料の名称	1 審議会次第 2 審議会名簿 3 審議会条例 4 パブリックコメントの募集結果について 5 資料1 第2期「浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（素案） 6 資料2 浅口市人口ビジョン（改訂版）（素案）
その他	傍聴者：なし
審議内容（要旨）	
開会（午前10時）	
事務局	皆さまにおかれましては、ご多用の折、ご出席をいただきありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、「令和元年度第2回浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会」を開催させていただきます。本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進行させていただきます。私、本日の進行を務めさせていただきます企画財政部秘書政策課の園部と申します。よろしく願いいたします。開会にあたりまして、中村会長からご挨拶をいただきたいと思います。

会長あいさつ

中村会長

皆さん、おはようございます。今日が総合戦略の最後のところで、答申に向かっていくわけだが。1つ事例で、総合戦略で面白いところがある。浅口市とは、全く環境の違う島根県隠岐の島の知夫村というところがある。わずか六百数十人の人口しかいないのだが、そこが島内留学ということで600人の家族と暮らす島留学で、ここ5年ぐらい、毎年数人単位で人口が増えている。たった10名くらいで大したことがないのではと言われるかもしれないが、六百数十名に対しての10名というのは大した割合で、日本でもトップクラスの人口増加率を誇っている。個々の施策で例えば、第1子、第2子でもお子さんが生まれると、第1子、第2子は50万、第3子は100万円。あと、Iターンが月額12万円、Uターンが月額11万円。島内の中学校までの医療費は無料。もの凄い施策をやっている。こんなことをすると、財政が破たんするのではというのがあるが、よく考えてみるといろいろな地方自治体が、総合戦略やいろいろな計画を立てる時、例えば移住計画のプランをする時に、県内よりも大都市の調査会社に委託してプランを立ててもらおう。それが大体数百万円くらいである。それで上手くいった結果は殆どない。そんなことを考えそんなことに予算をつくるより、こちらの現金を出したほうが、もの凄く効果があることが、いろんなところで実施されている。思い切ったプランを出すということは、それで効果が出れば、宣伝効果もあるし、先進事例にもなる。客観的には無駄じゃないかと思われるかもしれないが、裏を見るともっと無駄なことをやっているのだから、こちらの方が本当に、現金で第1子、第2子が50万、第3子が100万ということになると、ここに住んで、子育てをしようかなという気にもなる。そういう目に見える施策が重要なのではないかと思う。今日は、これから議事に入りたいと思いますが、最終回ですので皆さん忌憚のないご意見をいただければと思います。是非宜しくお願いします。

議事

事務局

ありがとうございました。それでは、これから議事に入らせていただきますが、これからの審議内容につきましては、正確を期するために記録をとってまいりたいと考えております。つきましては、ご質問及びご意見を出される時には、挙手の上、会長から指名された後に、お名前を言っていただいたうえで、ご発言をいただきますようお願いいたします。本日は、審議会委員18名中12名ご出席でございますので、審議会条例第6条第2項に規定する半数以上の出席があることから、審議会が成立していることをご報告申し上げます。また、本日の審議会は公開といたしますので、よろしくようお願いいたします。それでは、これからの進行につきましては、審議会条例第5条第3項に「会長は、会務を総理し、審議会を代表する」と規定されておりますので、中村会長よろしくようお願い申し上げます。

中村会長

それでは皆さん、よろしくお願ひしたいと思ひます。司会進行を務めさせていただきます。それでは、お手元の議事次第をご覧ください、浅口市の人口ビジョン及び第2期の浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、事務局の方からお願ひします。

事務局

(資料パブリックコメントの募集結果についてをもとに、パブリックコメントの実施結果の報告、資料2をもとに、浅口市人口ビジョン(改訂版)(素案)につ

<p>中村会長</p>	<p>いて説明、資料1をもとに、第2期浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略について説明)</p> <p>はい、どうもありがとうございます。最初に人口ビジョンの改訂版の資料を見て、素案について29ページ「介護ニーズ」と「医療ニーズ」とがあり、当然ですが、趨勢人口と戦略人口で終わればいいが、人口を増やそうとすると介護ニーズや医療ニーズが増えるのはやむを得ない。人口構成をしっかりとすれば、ある程度人口が趨勢よりも増えても、介護ニーズや医療ニーズを人口の増え方ほどは増えないように抑えていくのが、施策上、大事なのではないかと。細かな計算を含め、人口のビジョンについて素案を説明していただいたのと、もう一つの総合戦略の方は、前回の会議の皆様のご意見を踏まえて、いくつか修正していて、5年先の目標値を入れている。ということで、パブリックコメントがなかったのが残念でしたが、これから時間がありますので、皆様どうぞご提案のある方は挙手をされて、おっしゃっていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>色々な話し合いをさせてもらって、先ほどの説明にもあったように、ここという目玉的なもの、最終的にはそこに皆さんも持っていきたいのではないかと。金銭的な問題なので、例えば第1子なら20万、第2子なら30万と大きな額ではなくても、具体的に何か目玉のものがないというのは、今回少し出てくるのではと期待していたが、浅口市に余裕がないものと言っても駄目だし、計画にも入れられないので、是非、できる範囲の具体的な金額を、私たちに分かりやすく伝えていただけたらありがたい。具体的な金額を提示していただけるようなもう一步踏み込んだものが、現実の問題としてどうなのかという事が知りたい。もう1点は、沢山の配慮をしいていただいているのがわかり、浅口市には放課後児童クラブに関しても、非常に温かい支援をしていただいているのを実感している。そういう部分においても色々な方と話をすることで、浅口市は恵まれていると実感しているが、アピール出来ていないのはなぜか、2点だと思う。アピールが出来ないことと、現実のお金が出せるか出せないか、という大事な所の詰めが出来ていないのかなと思った。</p>
<p>中村会長</p>	<p>ありがとうございます。なかなか難しいところだが、お金は出そうと思えば出せる。どこへどう配分するかだけの問題。重点配分をどこにするかだから、言われているように、目玉の所に重点配分をすることになるので、議会で決めたらそこへ出す。その分他が減るという事で、出せないわけではない。考え方である。市民の意見がそこへ行くので、皆さんが代表として、しっかりとこういうのが重要だという意見が大切になってくる。4ページの最初に説明していただいた総合戦略の全体像の所で、1 安定した雇用を創出する、2 人の流れをつくる、具体的な所で、人口の社会増減を±0にする、3 合計特殊出生率、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える、4 時代に合った地域をつくる、自主防災関係。それぞれ代表的な数値目標が入っていて、具体的な施策をやりますという、施策の主軸があり細かな所というのがあるので、予算配分がそれぞれどの程度かということにもよるし、色々なものの事業単価で変わってくるので、右端の具体的な施策が重点的に、予算が配分されるべきだと思う。1から4の大きい目標があり、4つにど</p>

	<p>ういう大枠で配分していくか、それを決めて次に細かくしていくやり方。逆に実際にやっているのが、各部局、担当課から出てきたものがあり、出てきたものはそれぞれの担当課で、自分たちの施策にしたいわけだから、右端の施策で、こういった事をやるにはこれくらいの事業をやり、それにこれだけのお金がかかるといいうのを出していく。それぞれの部局、係が出していき、係を課にまとめ、課が部にまとめあげていき、財政課がヒアリングや調整を行い、市長査定がある。そして、まとめたものを議会に出し、議会で質疑応答をして修正案が出たり承認されたりする。大元はここで、市長の思いが入るので、どこも大事だが、どこを重点にするかというのは、皆それぞれに分野があるので、自分の所が大事だと思うが、最後に市長が変えたりする。市長がそこを重点にすればそれがマストになるが、勿論、それについて意見を言うのが我々の役目であり、議会の役目でもある。議会は我々の代表者だから。</p>
吉岡委員	<p>今、そういう部分においては研究という言葉を出された。これから色々な所の状況をみながら研究をしていくという。今、研究の段階の話をしている時期なのかなというのを疑問に思った。これからまだ研究して何か次の結果が出て、どうこうするような時期ではないのかなという風に。お金を出して、ほかの市町村がしていることを研究していくような。</p>
事務局	<p>前回の会議で、住まい、アパートの補助であるとか、そういった話がでたので、近隣の矢掛と笠岡に住んだらお金を補助するというのをやっている。矢掛町が150万円、笠岡市が100万円。実際、年によって変わっているので担当者に詳しく話を聞き、また、アンケート調査をした結果を提出してもらった。笠岡は、平成21年から行っており、平均が1年間で申請が75件程あがっている。1件100万円出しているので10年間で大体7.8億円、約8億円使っている。笠岡で家を建築する動機付けになったかというアンケートをとっていて、元々当初から市内に建築予定であったという人が62%。複数の計画があり、市内への動機付けになった人が20%。市外から転入する動機付けになった人が11.4%。動機付けにならなかったという人が7.6%。ということで、半数以上が市内に建築予定の人が使っていると考えられる。矢掛も同じように1年間で約27件の応募があり、150万円を配っているので年間で約4000万円出している。26年から実施し約5年が経過しているので、2億円程使われている。こちらの方もアンケートをとっていて、制度利用者の半分以上が、実家が矢掛町であった。今後、他所の状況は資料にして、浅口市としていくら出せるのかとか、こういう制度ができるのかどうかとか、額が非常に大きいことでもありますので、もう少し検討させていただきたい。</p>
吉岡委員	<p>出産の部分でも出産した時にはいくら払うなどそういった部分でも研究していくと言われましたよね。</p>
事務局	<p>矢掛町は出生者に対しても補助金を出しているということがあるので、浅口市においても子育て的な所に重点的に予算を配分していて、例えば県下で初めて中学生まで医療費の無償化を始めたり、学校の施設整備でエアコンを導入し、子育て</p>

	<p>しやすい環境づくり、こちらの方に予算を計上してきた。先程のように目玉をつくとすると、どのような施策がよいか事務局の方も考えているところである。全体としてどこに重点的に予算を計上していくか、これは市長の考えもあるが、限られた予算の中で効果的な施策を打っていかねばならないという事があり、値段という事になると、どうしても予算が必要になってくるので、慎重に研究したいと考えている。</p>
<p>中村会長</p>	<p>慎重に研究する気持ちも大事だが、笠岡も10年くらい行っており、効果を検証しているはずなので、それを取り入れる。昨年、一昨年くらいから行って検証、研究すると言っているが、10年くらいやっていてそれだけのお金を出していれば、当然議会でも効果があったかどうか言われているから重要な施策ですね。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>ここだというのを1つでもいいので皆さんの意見の中でまとめて、是非市長さんに提言していただけたらと思う。研究と言われても、何のためにこれだけやってきたのかと思う。是非、具体的に何か目玉を。沢山の中で、色々な事をして下さっているが、その後、他の市民の方々はこの文章などを読まれないだろうし、浅口ではこれをやりますよというのが1文だけでもわかるものをしてもらいたい。そんなに大きくしなくても、第1子10万、第2子20万でも何でも具体的にしますよという感じが出れば、魅力を感じていただける。</p>
<p>中村会長</p>	<p>今のは大きく言うと、基本目標の中の3番。悩ましいのは、1番の雇用を創出する施策とか、2番の人の流れをつくる施策とか、4番の持続的・自立的な施策とか、それぞれが独立して動いているのではなくて、お互いに影響し合っているという部分、原因と結果という両方に問題があるので、一番の根っことは何なのかという部分が重要になってくる。3番を重点的にすれば、1番や2番は自動的についてくるのかなと思う。ある程度1番や、2番、4番なども一緒に嵩上げていかないと、3番を達成できない。そうは言っても具体的にここを重視したいとか、そういうのはあってもいいかなと思う。</p>
<p>山田委員</p>	<p>総合戦略3の、切れ目ない支援というところで、私どもは赤ちゃん訪問をして、その後今度は幼稚園就園前の子どもさんを持つお母さんの訪問をしているが、これは虐待防止のためということもあり、家でお子さんを見ているお母さんが、日常とは離れて、子どもさんよりもお母さんがゆっくり楽しい時間を持っていただきたいということで、数は少ないが2月7日に行った。私たちの年代は年寄なわけで、孫くらいのお子さんをもっているお母さん方をエプロンや紙芝居であるとか調理をしていただいた。以前、親子で7、80人来てすごく困ったことがある。私は金光地区で行っているが、今は3地区で行っている。募集をしたら、親子1組ということがあり、休みの日に市の職員さんをお呼びして、10組までいかない感じで色々探してきた。金光地区から浅口市に広げましょうと募集をしたが少なかった。この度は若いお母さん方を相手にしているコープの役員さんからの様なことをしているかお聞きして、ハーバリウムという、小さなガラスの中にドライフラワーを入れて、オイルを入れて作って楽しむというのをやっていただいた。20組募集をしてそれ以上の応募があった。感想を聞いて驚いたが、</p>

	<p>「子どもが生まれてから今まで子どもと離れたことは一度もありませんでした。とても楽しかったし、これからもしてほしい。」というような感想もいただき、ほとんどの人が喜んでくださった。私たちの頭は古いなど。車を運転している方々なので、どこにでも行ける。玉島の児童館も近いのでそちらに行かれるとか、友達だけでお子さん連れでどこかに行くことができるようになった。昔のように、子どもたちの世話をし、お母さん方にはゆっくりしてもらおうみたいなのでいいかなと思っていたが、そういうのはネットなどで見ればいから教えてくれなくてもいいというような感じだった。やはり、頭を切り替えなければいけないだろう。若いお母さん方が、たくさん集う行事を色々やっているの、参考にしていけないといけないと思った。希望者がいないことそのものが問題だと言われるが、ボランティアなので、そこまでは出来ていない状態である。2年前に組合をつくって若い方々がメンバーで構成されている。掃除には、全員が参加して、30代、40代で若いので、エネルギーな活動が出来て面白かったです。</p>
<p>中村会長</p>	<p>他にご意見ございませんか。</p>
<p>山下委員</p>	<p>資料1の16、17ページ。4の時代に合った地域をつくりという所で、その中の施策の基本的方向の自助・共助・公助。私も今、地元で老人会の会長をさせてもらっている。老人会も含め国の年金制度により、例えば70歳まで働いている。昔は60歳を過ぎたら老人会に入っていた。年金で食べていけるので。それが今は70歳、勿論65から、それではまだ老人会に入るのは早い、80歳になってから。そういうことがある。コミュニティが、じわりじわりと崩れていく現象ではないかと思う。今後、具体的に市行政が大切だという事を訴えてほしい。これは大事なことで色々なことが全部崩れてしまう。皆さんの社会保障機関が崩れている、共同、教育していくという事が。消防の方も加入者が少なくなっている。自主防災を立ち上げているがある意味では形だけである。そういった傾向を食い止めるために、1つ1つを充実させ、常日頃から訴えていく必要があるのではないか。それを市行政が支援いただければと思う。</p>
<p>中村会長</p>	<p>地域の町内会、コミュニティなどは、どこの地域も同じような状況で、苦勞している。結局、地域のコミュニティは、担っている人がごく一部の人で、しかも後継者がなかなかいないというのが、どこの地域でも大なり小なり同じことが起きている。色々な人の価値観が変わってきたり、スマホが進んでいたりするのがある。地域で独居老人がいたり、防災、災害があった時に、コミュニティがしっかりしている所は、例えば真備などは、被害が少なく食い止められたというのがある。これは非常に大事な事。それが16ページの「確立します」というのはそうだが、もう少し市民の人にそういうことの大切さを常日頃から訴えていたり、ワークショップをやるなど、普段の努力を欠かさない。そういった文言が前向きな事をやれるのであったほうがいいかなと思う。本来はKPI、目標値が919から940に、62から75になる数値はそうだが、何でそこまでもっていくかというプロセスで中身がなく、取り組みは取り組みだが、消防団員の確保・強化というのは勿論そう。それをするために具体的に何をすればいいのかというのは、総合戦略になかなか書きにくい。それが何となく伝わってくるような文章が、あつ</p>

	<p>ていい。もっと積極的に集会を開いて、日常茶飯事のコミュニケーションを高めていく。どうしても高齢化してある程度は人材不足だが、ある程度やるぞというのが滲み出るような文章が一言あったほうがいい。</p>
鈴木委員	<p>人口ビジョンのほうで、この前お話になった合計特殊出生率の設定数字の 2020 年が 1.60 となっているが、直近が 1.38 なので結構難しいと思って、具体的に出来そうだという根拠があれば教えていただきたい。なければこの数字をただ掲げているだけという印象が強くなりかねないか。この数字が大きい気がするがそのあたりはどうか。</p>
中村会長	<p>合計特殊出生率は、直近を計算するのはなかなか難しい。</p>
鈴木委員	<p>21 ページの合計特殊出生率の設定、今年が 1.60 になっていて、あと数か月後の話で、計算上 2.07 にこだわるのだと思うが、見る人が現在の話で 1.38 というのが際どいと思う。もう少し現実味のある数値にする方法はないのか。</p>
事務局	<p>2015 年の 1.37 は、人口問題研究所が出しているもので、出生率を出すのは 1.37 が遅れて出てくるのですぐ出せない。これは人口問題研究所の設定値で、浅口市の 2015 年は 8 ページにあるように 1.30。この時点で人口問題研究所の設定より下回っている。直近は、浅口市で 2017 年の 1.38 が出ていて、これが右肩上がりになるように頑張っていきたい。委員さんが言われるように、乖離しているというのは全国的にも言われている。国の方も 2.07 で実際に国の調査で、若い人が何人産みたいかという希望の実数をとると、2.01 が出ているが、実際には 1.8 にそれを持っていきたいという考えだが、それにも届いていないのが現状。浅口市も確かに高いなと感じている。</p>
中村会長	<p>21 ページの値は法的な設定。出生率というのは、岡山市や倉敷市と違い浅口市の場合、そんなに分母が大きくない。1 人生まれる、1 人生まれなかったというのでかなり変わってくるので、だいたい 3 年ぐらいの平均をとるのが一番いい。例えば、27 年、28 年、29 年だとしたら、1.3、1.14、1.38 なので、これを均すとだいたい 1.25 くらいになる。ぶれるものは 3 年間の平均値をとって進める。趨勢としてどうなっているかというところ。なかなか子どもが増えるのは時間がかかる。今は数的には問題ないが、生まれてくる子どもが減ってくるという事は、よほど転入がない限り、そういう人達が 20 代、30 代になって分母が減ると、当然生まれてくる子どもの数も減るので、出生率の数が減る。同じ出生率でも数は減る。それは気を付ける。概算の話になる。2020 年に 1.6 というのは、つまり、この割合を人数に直すとどうなのか。1.37 が何人で 1.6 が何人、その差で例えば生まれる子供が 15 人増やすという事になるので、人数的にどうなのかというのがある。しかし、ここはかなり無理そう。設定を下げると将来的に厳しいことになる。全部変えないといけなくなる。国自体が予想を外れている。希望的な所で数字を入れている。よくあるのが、上位・中位・下位の 3 段階に分ける。出生率を 3 つに分けて、上位人口・中位人口・下位人口とあり、そのどこかというのがわかる。そういうところもある。出生率が低くても転入が多くて、例えば出</p>

	<p>生率が上がるというのは、転入で若い人が入ってくるという事になれば、出生率が上がる。今の状態が続けば上がらないが、1つは若い人が入ってきて、特別支援などをやっていって、出生率が上がるというのと、実際今住んでいる人の出生率が上がる、というのはあまり多くないと思うが、若い人が入ってくるほうが、出生率が上がる。数字を変えるのは難しい、書き方を変える。皆さんの意見がほしい。これは審議会なので、この数字は審議会が承認した数字なので、数字を出している背景、こういう理由でこうなんだという。</p>
山下委員	<p>目標値を変更するのは大変。2020年の目標値の部分を、2023年に変更してはどうか。</p>
中村会長	<p>そういった方法もないことはない。また、但し書きとして、あくまでこの数値は希望的な数値であり、そのためにこういった戦略を推進しますといった文言を入れるのが一番いいので入れてください。</p>
事務局	<p>中村会長が言われる通り、文言を入れさせていただきます。文言の内容については、答申前に会長、副会長に確認させていただきます。</p>
中村会長	<p>大体どこの戦略も目標値と乖離している。特に人口の部分。そもそも4年前に総合戦略をつくった際に、国が人口を増やせ増やせと言っているのに、増やさざるを得ない。そのために何とかなるだろうと目標設定している。実際はそんなに甘くない。うまくいっているところもあるがそれはレアなケース。</p>
山下委員	<p>24～28ページのグラフで気が付いたのだが、2060年の戦略的人口が若年層は幅が広く、高齢者は幅が狭い。若年層に期待しているという事。これは私は正解だと思う。</p>
中村会長	<p>2060年は40年先なので、今生まれた人が40歳になる時の事。今生まれてくる人少ないので、生産年齢人口に影響が出る。高齢者人口はある程度固まっているので、少子化の影響で亡くなる人は減ってくる。</p>
原田委員	<p>一番根っこの部分で、これから市長へ答申して、その次はどうなるのか。どうしても、総合戦略は抽象的なものになってしまうのはわかるが、その次の具体的な部分はどうなるのか。</p>
事務局	<p>総合戦略に記載している、KPI及び主な取組について毎年度、各担当部署に実績の数値を確認し、内部評価を経た上で、審議会による外部評価をしていただき、その内容を市長へ答申します。その後、答申を受けて市長が必要と思う内容や施策等があれば、担当課によって事業の予算を組み、市の議会に諮り、承認を得られると事業を実施していくという流れとなります。</p>
原田委員	<p>それでは、施策の発案場所はここではないのか。</p>

中村会長	意見、発案はここで主張し、答申として市長に渡すことはできる。それを受けて市の担当職員、市長が必要と思えば意見、発案が取り入れられ、予算取りする流れとなる。
原田委員	そうなるとこの審議会の存在意義としては、先ほどの人口目標の数値をどうするかなどの現状追認の場となってしまってはもったいない。サブ審議会として、様々な有識者を集めて、具体的な施策の内容等について審議するような会を開くことを提案できるか。
中村会長	それは提案できますね。この中で例えばいろいろな若い世代への支援があれば全体的に検討するところなので、もっと部会みたいなものをつくって検討すべきだということは提案できます。
小野委員	さっきの話の続きですが、問題なのはパブリックコメントですね。0件というのは大問題。周知不足なのか関心がないのか分かりませんが、0件というのはどうなのでしょう。
中村会長	余談ですが、昨日名古屋の大きなビルで講演をしたのですが、皆さんもいろいろな講演を聞くこともあろうかと思いますが、大概 10 分から 15 分時間をとってご質問ある人はと聞きますが、まあ仕込んでない限り 0 人ですね。その度は民間の IT 関係の会社でしたが、クラウドサービスで皆さんスマホとかで、手元で入力するんです。それを画面に、誰が言ったか、匿名でもどっちでも良いのですが、こんな質問があったということで、ずらっと出てくるんです。そして、それに対して「いいね」がついたり、それが 15 分間休憩があって手元にあるとかで、スマホかパソコンなどのソフトで、それをダウンロードして、それをやると前のスクリーンに質問が沢山出てくる。100 人位で十いくつ質問が出てきて、それを見て同じような質問をされた人が「いいね」で答えるし、それに対し回答をしていく。パブリックコメントもインターネットというか、極端な例で言えば、アプリみたいなものをダウンロードして、それでどんどん入れてもらって、フェイスブックとかそんなのでやると、若者の意見を捉えることが出来る。若い人の意見を聞こうとすると、僕らの世代はパソコンですが、今の時代はスマホなので、それでフェイスブックとか SNS などで意見を取る。それでいいことかどうかは分かりませんが、これで意見をくれた人には何かサービスをするであるとかあってもよいのでは。金銭的なサービスは無理ですけど。
山下委員	それだと浅口以外の人も回答してくるのでは。
中村会長	それはたぶんしないだろうと私は思う。浅口市に住んでいない人は関心がないから。
山下委員	でもダウンロードはできるのでは。
中村会長	隣まちがどうだろうとその人には関係がないのでそんなことはしない。また話が

	<p>戻るが、意見してくれた人にマイレージみたいなもので、ポイントをあげて、市として、総合的にアプリなどを作って、健康ポイントとして毎日5キロ歩いたら5ポイント、意見をくれたら数ポイントというようにマイレージを貯めるんです。その貯めたマイレージを、これはあるまちの政策なんです、お金の換えないんです。どこに換えるかというと、自分が卒業したところや、お世話になったところへ寄附するんです。自分の出身の小学校・中学校にそのマイルを寄附してやって、それが市の予算として、例えば電光装置をつけるとかして、自分のためには使えないのですが、お世話になったところへ寄附をする。これは豊岡市の例ですが、アプリをダウンロードして、一所懸命歩くようになり、それで自分がお世話になった中学校、高校にそのマイルを貯めて施設を改善していく。このマイルを取り入れた結果、こういった意見についてもものすごい増えた。そういう風になれば若い人の意見は集まる。例えばこういった審議会でも30代、40代の若い人をSNSなどを通じて取り入れている。そのような状態です。</p>
山下委員	<p>提出された意見が0件というのは、我々メンバーに全幅の信頼でお任せしますということでしょう。そう考えればよいのでは。</p>
井上副会長	<p>それを言われた、これを出されて議会で審議する。最後に少しだけ、お金のことですけれど、浅口市は沢山ある。大体基金といって貯金ですね、これが60、70億円ある。それで予算を組む時にはお金がないからと言って、いつも10億円を取り崩す。それで取り崩すが、次の年の当初予算では10億円以上基金を積む。だから基金がどんどん貯まってきている。お金がないんじゃない。部長そのところはどうか。</p>
事務局	<p>これまで、浅口市の場合、いわゆる財政調整基金という貯金が合併以来、積み上がっておりましたが、ここ数年、決算をして余ったものを次に積み立てるということでしたが、実は取り崩した部分より大分少なくなっておりまして、財政調整基金の純減がおきております。また予算は各部局から来年度はこれだけということに積み上げていきますが、これが実際の歳入の見込みに比べて、約20億円程度、要求額が増えていきます。これでは予算が組めないということで、それを査定で削っていく。だけれども福祉関係、扶助費を中心にどうしても必要になってくる額も増えております。防ぎきれものではありませんので、これまでの積み上げてきた貯金を取り崩しということもやっていかないといけない。何とかお金を残して、少しでも積み立てていくという努力はするのですが、それが取り崩した分に追いつかないという状態が続いていますので、ここ数年、財政調整基金が減ってきているという状態になっています。こういった状態は好ましくないもので、これに対し当局といたしましては、厳しく査定もしていきますし、また歳入の確保もしているという現状であります。</p>
井上副会長	<p>そんなに詳しくなくて端的に言ってくれば皆分かる。なぜ基金が次から次へと出ていくかと、それから各部署へ全部、今年は何パーセントカットしなさいと、予算ですから全部使えばよい。下げることばかり市長は言う。防災がどうか、これから交付金がなくなるとか、今あるものは使えばよい。そんなに貯金をする</p>

	<p>必要はない。それから予算を組むのに、次の年度を待たないと駄目という。しかし、これは恥ずかしい話ですが、議会から勝手に条例を出して、そして給料を上げました。そうしたらすぐ予算を組んだ。こういうことは次の補正予算ということになるはずが、すぐに10月から組んだ。こういうことが出来るんですよ、自由にやろうと思えば。だからお金を今現在の人にもっと使って下さいよということをおきします。よろしくお願ひします。</p>
<p>中村会長</p>	<p>積極財政ということで、結局、考え方というのは皆さん個人の家計を考えると同じ事なんですね、それは。高齢化していったり、今後、金が必要になるからそうなのか、いや自分たちが稼いだお金なので、自分たちで使おうとか、積極的にいくか、リスクを避けようとするのかは一口で言うと、市長の考えなんです。例えば、総社市長は積極財政ですよ。それはもう、その人の価値観なんです。価値観というか、考え方なんです。日本の考え方が積極財政やるかというのも、通貨も貨幣の供給量でできるんです。実際できないんですけど、それだって2つに割れているわけです。積極財政やるかどうかというの。ですので、それはものすごく難しいですね。難しいっていうか、どこによって立ってるかということもあるので、個人のあれなので。ぼくは基本的には積極財政の側の人間なんですけど。国だと積極財政やってもいいという考えなんですけど、真っ二つに分かれます。大学の授業になるんで、長く時間がかかりますからやめますけど。だから、議会があるんです。議会があつて市長が諮る。そこでやり合う。やり合うというか着地点を見出すわけで。当然どういう議論をしていただくかということは、ここできちっと意見を出すということが重要だと僕は思います。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>せっかくこう何回かにわたって意見を出させてもらったんで、ここで一つの冊子ができるわけですから、ここで皆さんの意見として今言われましたような具体的に金額は決められませんが、第1子、第2子、第3子とそういう所に祝い金を出そうねっていうのはぜひやってほしいっていうのを提案をしてもらうように、皆さんの意見として、わたしとか原田先生だけの意見ではなく、この会全体の意見として出していただけたらなと思います。</p>
<p>中村会長</p>	<p>それはですね、皆さんの了解があれば。ここにすべての意見を書き込むわけにはいきませんので、了解があれば可能です。</p>
<p>原田委員</p>	<p>私は第1子、第2子、第3子は例として言っているだけで、そういうのを決めるための部会というか、どこで決めればいいのかということなので、誤解のないようにお願いします。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>それは分かりますけど、ここで。</p>
<p>中村会長</p>	<p>草の根的についでいう、そういうのは今は難しく、もう答申の時期なので、やめるっていう場合には、これに出しますんで、また11月くらいになれば、中間報告的なものが出る。その時に言えばいいんです。これだけ進めながら10ヶ月程度で出生率下がってくるわけではありませんけど、そこでKPIなんかの場合は</p>

	ここに重点的に予算を配分するように調整するということを審議会の意見として言えばいいんです。それが上がって、事務局と議会で検討してもらえばいいということです。
吉岡委員	分かりました。
中村会長	それでは原田委員が言われたように、草の根的にコミュニティを充実させるというのは、ここに入られます。追加報告として審議会の総意であれば挙げることは可能です。他にご意見は。
守屋委員	簡単なことでいくつか。資料2の6ページについて、年齢不詳とはどういう意味か。
中村会長	答えていないんです。国勢調査に答えていないんです。国勢調査で各世帯に依頼して聞くんですけど、その時に年齢の欄が空白なんです。
守屋委員	はあ、そういったものが出てくるんですか。
中村会長	出ます。そもそも回収率が低下していますから。
守屋委員	僕はこういったものを全然知らなかったから。公の表でこれからは出てくるんですね。
中村会長	こういうのはネットでというか、簡単にできるようにしないとですね、マンションとかそういうのになると、ほとんど大都市で回収率はガタ落ちです。それこそコミュニティがしっかりしていると回収率は上がります。国勢調査という国勢と書くのでこれをベースにいろいろなことが決められていくので、意見は大事なんです。
守屋委員	それで資料1、できれば総合戦略で出てきたような施策の枠組みというカラーで出ているやつが赤系統が分かりにくい。目立つように色分けを考えてほしい。例えば8ページ施策の枠組みとかあるが、外の色と一緒にしまっている。それから、最初にあったが、この総合戦略で対象期間はというものは、もう一度あえて入れてもよいのではないかと、この度は第2期だと強いインパクトを与えるためにも入れた方がよいのでは。13ページ、一番上の3番の「若い世代の結婚」若い世代という言葉はやっぱりいますか。当たり前かもしれませんが。いるのかな、施策の枠組みにはないけれど。それから14ページ、表があるけれど、この希望者が何%というのがあるが、平成30年度のところは希望者か、どうなのか。
事務局	こちらに関しては、30年度の方は全体の割合を出しておりまして、令和6年度の方は希望者の100%に変更している。

山下委員	これは実績ですね。平成 30 年度の方。
事務局	これは実績です。赤ちゃん訪問の割合について現況地の平成 30 年度は全体の 87.3% になってます。全体の割合として、すべての赤ちゃんの産まれた方の 87.3% で、目標値の令和 6 年度に関しては、希望された方の 100% ということで、数値の取り方を変えさせていただいている。
中村会長	分母が違うということね。
事務局	はい。
守屋委員	それから 16・17 ページ、4 番の大きなところ、「時代に合った地域をつくり」それから安心、やっぱり下の方に出てくるように「安心・安全」というのが出てこなければ安全が確保されて安心になるんでしょうけど、もういろんな文章見ると「安心・安全なくらし」がなかったらピンとこない。中には「安心・安全」と書いてあるんですけど。それで最初の「時代に合った地域をつくり」もいいんですけど、間違っているとかいう意味でなく、当たり前で例えば時代に合ったとはどういうことなのか、自分のモットーとしては、人と人とのつながり、地域と地域がつながる、それを常に思っている。なんかこう具体的なことを書いてもらいたい。地域と地域がつながり、安心・安全なくらしを確立するとか。具体的な、もっと浅口市はここでこういうことを言うんだといった表現を。
中村会長	いま言われた 4 番のところは「安心な」を「安心・安全な」にかえた方が良いということですね。直していただきましょう。
守屋委員	あと、抽象的なところは個々でどうこうというものではないです。
中村会長	時間が押してきたので、今まで大きな意見として、出生率のところとコミュニティのところでもっと具体化していく文言を入れていくということだと思います。あと、大枠としては大事なところなので、今後、私と副会長と一緒に事務局と協議してこれをベースに答申をつくってまいりたいと思います。外に何かございますか。ないようなので、事務局の方でお願いします。
事務局	事務局から報告します。総合戦略策定後の審議会の役割について説明します。今後は庁内において総合戦略においては PDCA サイクルのもと、毎年度、進捗管理を行います。こちらの審議会においても毎年度、外部組織として評価・検証をしていただくこととしております。来年度の審議会の開催時期につきましては、決定しましたらまたご案内させていただきます。よろしく申し上げます。事務局からは以上です。
中村会長	それでは本日の審議会はこれで終わりたいと思います。事務局にお返しします。

閉会（正午）

事務局	それでは、閉会にあたり井上副会長よりご挨拶をいただきます。
井上副会長	皆さんたいへんお疲れ様でした、熱心にご審議いただきありがとうございました。ぜひ今後も引き続いて活発なご意見を出していただき、引き続きお願いしたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。
事務局	これをもちまして、令和元年度第2回浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。